

example
2

NFT事業のDEAとテレビ東京がIPビジネス拡充に向け提携

テレビ東京(以下、TX)は2022年10月27日に「新分野の強化に向けて『NFT』事業会社に出資」を発表した。出資先はシン



テレビ東京 総合編成局・平山大吾局次長 兼 編成部長
DEA 山田耕三 Founder & Co-CEO

ガポールのDigital Entertainment Asset Pte. Ltd.(以下、DEA)で、2人の日本人がファウンダーである。その一人の山田耕三Founder & Co-CEOは、TXに2002年から2017年まで勤務し、番組プロデューサーや営業などを担当していた。DEAを、なぜ日本ではなくシンガポールに設立したのか。「NFT事業に使う暗号資産の発行と流通が、当時の日本では難しかったから」と山田Co-CEO。

TX石川一郎代表取締役社長はDEAへの出資を「Web3という最新のデジタル技術を生かしたコンテンツビジネスの拡充を目指した第1弾」と突破口に位置付ける。この線上に山田氏がいる。TXで新規事業を担当する総合編成局の平山大吾局次長 兼 編成部長には、「山田氏は番組と一緒に制作したチームメンバー」という信頼が、NFT事業に挑む裏付けにあるのだろう。

DEAは自社で発行する暗号資産「DEAPcoin」とゲームを融合させたプラットフォーム「PlayMining」を運営し、現在5つのNFTゲームを展開し、100カ国以上で260万人以上のユーザーがいる。NFTゲームとは何か。山田氏は「お金を稼げるゲームである『Play to Earn』」と説明する。ゲームを楽しんで稼げるという仕組みをもう少し聞こう。「ゲームプレイに応じてDEAが発行する暗号資産であるDEAPcoinが手に入り、それを暗号資産取引所で日本円に交換できる」。

また、コンテンツクリエイターが描いたアイテムなどをNFTのデジタル資産として売買できる。ここにTXは

着眼したのだろう。「放送局として番組・コンテンツのIP (Intellectual Property) を生み出してきたが、ゲームプラットフォームでの権利処理やNFTの事業展開があるのかを肌感覚としてつかみたい。そのためにDEAに出資し、人材交流や知見を深めていく」と平山氏は狙いを話す。パートナーの山田氏は「TXはアニメなどのコンテンツビジネスに実績があり、次世代のWeb3エンタメコンテンツと一緒に生み出したい」と、ポケモンのピカチュウのような爆発力のある新規コンテンツIPのクリエイトを目指す。さらに「Web3や暗号資産、NFTについてテレビ局のマス発信力を生かして、『ゲームで遊んでお金を稼ぐ』という新たなファンコミュニティのモデルの可能性に期待したい」と、もう一つの狙いを明かす。

TXとしての期待は、「世界で260万人もの独自のコミュニティがあるDEAと組むことで、アニメのキャラクターなどをゲームの基点にし、自社IPとしてグローバルなNFT市場で展開できるのか。NFTについて法制度も含めた実践的なトライアルがDEAのゲームコミュニティ上でいち早くできる」ことにある。平山氏は長年番組制作を共にしたチームメンバーとの協業に意欲を示す。

example
3

開業65周年の東京タワー「VIRTUAL TOKYO TOWER」を展開

1958年に333mの高さを誇って開業した東京タワーは、2023年12月に開業65周年を迎える。TOKYO TOWERの澤田健営業部長は「東京を代表するランドマークというブランドとなり、IP (Intellectual Property) の知的財産です。65周年を迎えるに当たり、世界中から東京タワーを楽しんでもらえるバーチャル空間を考えました。」と話す。

バーチャル東京タワーには何があるのか。サービス展開をサポートするウイスクムの齋藤隆代表取締役は「バーチャルスペースとして用意したのは、展望台のトップデッキとメインデッキ、フットタウン野外フェス会場です。同時接